

美方高校新聞



発行所
福井県立美方高等学校
部
新 開 責任者 部
編 集 責任者 部
新 開 責任者 部

吹奏楽部定期演奏会2022 響き渡った感動と喜び

三月二十六日、パレア若狭にて定期演奏会が行われた。今回演奏された十一曲は、部員が中心に選曲をした。3月に卒業した三年生も参加し、会場準備や受付を手伝うと共に後輩達の演奏を見守った。

第一部はクラシック系の二曲だ。『アルヴァマー序曲』は開演を感じさせる壮大な曲だった。来場したお客さんは「最も印象深く、臨場感があり盛り上がりがあった」と感想を述べた。

『マードックからの手紙』は、OBと一緒に演奏する恒例の曲だがここ数年はコロナ禍で共演ができていない。「三年生と一緒に演奏したい」という思いが込められていた。タイタニック号がテーマとなっており港、大海原、船上、沈没、終幕と物語が感じられる演奏だった。

第二部のテーマは『タイムスリップ』で1971年から20



迫力のある指揮と演奏で開演

21年までに流行したJPOPを演奏した。また進行役の桑島さんと蛭子谷さんによる軽妙なトークを挟んで観客を楽しませていた。

特に石川先生が歌う『チェリー』や、城戸先生と卒業生がダンスをする『恋するフォーチュンクッキー』は注目を集めていた。

城戸先生は「振り付け

最後には、凧(タコ)が飛び綺麗な青空になるよう平和を願って『カイト』を演奏した。盛り上がりのあるパートは、青々とした空を感じさせる音色だった。



歌と共に思いを伝える部員ら



城戸先生らによるダンスパフォーマンス

今年度は卒業生への感謝の思いを込めて「ベリーグッドマン」を思い出のムービーと共に合唱した。これは三年生にとってサプライズソングとなった。卒業生は「写

真も歌も良く、思い出が蘇って、おもわず涙が出そうだった」と感動していた。演奏会を通して感動と喜びが観客に伝わったと感じた。これまでの努力が実りとバトンが繋がった瞬間といえるだろう。

努力と成長 コメントの数々

部長の小畑さんは「曲は一月に決め、練習期間は二ヶ月しかなかったが、本番は一瞬一瞬が楽しく自然な笑顔で演奏ができた。今後は新入生に興味を持ってもらい迎え入れたい。まだコロナで制限があると思うがイベントを多く行いたい」と語った。

城戸先生は「短い練習期間の中、部員中心によくここまでまとめられたと思う」と賞賛していた。また、参加した卒業生も「明るく元気がかっこよく成長していた」と褒めていた。お客さんは「チームワークのある演奏で元気を貰った」と喜んでくれた。

今年度も新チームで様々なイベントでの活躍を期待している。

ボート部 全国選抜で劇的な活躍

女子舵手付クオドルプル・男子ダブルスカル優勝 出場全クルーが入賞果たす

新聞部の裏側 ペンネームK



全クルーが入賞 喜びの笑顔

三月十九日から三月二十一日に静岡県浜松市天竜ボート場にて全国高等学校選抜大会が行われた。美方高校からは全五クルーが出場し、女子舵手付クオドルプルと男子ダブルスカルが見事優勝を果たした。また女子シングルスカル五位、女子ダブルスカル三位、男子クオドルプルが六位と

優勝 女子舵手付き クオドルプル

全クルーが入賞となった。中でも、女子舵手付クオドルプルは今大会で四連覇を達成した。

女子舵手付クオドルプルの満田真央、鍋田彩桜、上村柚子、岩本結愛、岡部清華は、冬季にエルゴやウエイト、有酸素運動等に取り組み、本番を見据えて備えてきた。主将の上村柚子さんは「初めての二〇〇〇mのレースで緊張したが楽しいレースだった。大好きな清水先生を日本一の監督にできるようにこれからも結果で恩返ししたい」と語った。

優勝 男子 ダブルスカル

男子ダブルスカルの柴崎峻佑、岸本智樹は、



息の合った、力強い漕ぎ

本番で二人のリズムをぴったり合わせゴールまで漕ぎきった。柴崎さんは「二人で靴下を合わせる約束をしていたが、間違えて履いてしまいが不安になった。しかしレースは記憶が飛ぶくらい一生懸命だった。インターハイに向けてこれからも精進していく」と語った。

六位 男子舵手付き クオドルプル



この結果を勝ち取った喜びをかみ締め、次はインターハイに挑みたいと語った。

メンバーの赤尾寛太、岡本風哉、石田歩、浜松紘生、天渡羅偉の五人はほとんどが初心者の一年生クルー。これからの飛躍が楽しめた。他のチームとパワーで競うのではなく漕ぐリズムやキヤッチの速さを磨いてきた。

五位 女子 シングルスカル

中村彩香さんは、後半に勝負できるようなレースプランを立てて試合に臨んだ。「レース後は嬉しさと悔しさで一杯だったが、この気持ちインターハイに全て注ぎたい」と熱い決意を語った。

三位 女子 ダブルスカル



リズムよく、漕ぐ

一年生同士で組んだ武田望花、小野寺紗耶は、二人で課題を共有してから艇に乗るなど、集中心力を高めて毎日の練習に取り組んできた。今回その努力が実る結果となった。



【清水先生のコメント】

今年はコロナ感染症や大雪の影響で水上練習ができず準備不足の面もあったが、チーム全体の努力と工夫で補い大会に臨んだ。ボート競技というのは積み重ねの競技。だから春季総体そしてインターハイを目標にしっかり準備を進めていきたい。選手を応援してくれた皆さんありがとうございました。
